

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	うるま市合併再生プロジェクト		(3) 対象地域	沖縄県うるま市
(2) 実施団体名	沖縄県うるま市		(5) 推薦団体名	
(4) 代表団体名				

	取組① 観光まちづくり形成事業	
	実施主体	実施内容、実施結果
(6)実施した取組の内容	取組① 観光まちづくり形成事業 実施主体 主担当:うるま市観光課(副担当:うるま市闘牛組合、うるま市商工会、うるま市エイサー団体、うるま市阿麻和利浪漫の会、旅行会社、うるま市民)	
	当初提案により予定していた計画	
	実際の取組内容及びその結果	
	-1	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:うるま市三大イベント(闘牛・エイサー・阿麻和利)の観光商品化(通年定期開催) 実施時期:平成20年12月～平成21年1月 実施場所:うるま市多目的ドーム、うるま市石川会館 目標来客数:闘牛・エイサー(300人)、阿麻和利(300人) 取り組みの目的:うるま市特有の観光資源(闘牛・エイサー・阿麻和利)を活用した新たな観光商品を造成することにより、観光客滞在による地域への経済波及効果を図る。具体的には上記観光資源を中心としたモニターツアーを計4回実施する。
	-2	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:多言語(4ヶ国語)による観光案内の強化 実施時期:平成20年12月～ 対象物:観光案内情報源(三大イベント募集チラシ、四島巡り、観光ガイドブック、ホームページ) 取組の目的:観光案内情報源を多言語(4ヶ国語)表記し、外国語通訳案内士(多言語案内ガイド)を設置することで、外国人観光客受け入れ体制の整備を行い、観光客の誘客を促進し、知名度向上と地域滞在力の強化を図る。
	-3	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:有料観光ガイドの創設 実施時期:平成20年12月～平成21年1月(計4回) 実施場所:「東洋一」の海中道路と結ぶ「四島巡り」、世界遺産「勝連城跡」 取組の目的:「四島巡り」と「勝連城跡」の周遊観光に、有料観光ガイドを設置することで、地域雇用の促進と観光案内サービスの向上を図る。
		<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:うるま市三大イベント(闘牛・エイサー・阿麻和利)＋うるま市四島巡りツアー 実施時期:平成20年12月12日(金)～13日(土) 実施場所:うるま市多目的ドーム、うるま市石川会館 来客数:闘牛・エイサー(約650人)、阿麻和利(約600人) 取り組みの結果:県外客を市内に誘引し地域経済活性化を図るため、従来の不定期開催による市内向けイベントを市外・県外向けにアレンジした。具体的には沖縄で少ないと言われる夜のイベントとして闘牛・エイサー・阿麻和利を実施し、昼間はうるま市四島巡りを回る内容をモニターツアーとして実施した。地域の独自文化が新たな観光資源になりうる事が証明された。アンケート結果では「(闘牛・エイサー)満足・やや満足59%」「(阿麻和利)満足・やや満足が77%」と非常に好評であった。これら活動を通じて地元関係者の協力関係が構築されつつあり定期的開催の気運は高まってきている。今回の実績を踏まえ開催時間帯等の諸問題を解決しつつ、1月30日(金)～31日(土)に3・4回目を実施予定。 実施内容:多言語(4ヶ国語)による観光案内の強化 実施時期:平成20年12月～ 実施場所:うるま市 取組の結果:上記モニターツアーに参加した外国人(英語、中国、韓国各3人)に対し、通訳案内士によるガイド、モニターツアー募集チラシ、多言語表記ガイドブック等の内容に関するアンケート調査を実施した。「通訳ガイド・多言語ガイドブックを通して旅行が旅行が非常に楽しめた印象88%」「多言語ガイドブックは非常に便利だった75%」と高評価をいただいた。(ホームページは1月下旬に開設予定) 実施内容:有料観光ガイドの創設 実施時期:平成20年12月13日 実施場所:「東洋一」の海中道路と結ぶ「四島巡り」、世界遺産「勝連城跡」(各1回) 取組の結果:旅行会社が組んだモニターツアーのバスに有料観光ガイドが同乗し上記施設を含む観光施設をガイドした。アンケート結果では「ガイドの印象良かった79%」「また使いたい83%」と満足度が高く、「観光はガイドがあるとなじり大違い」「これだけの内容であれば有料でも構わない」との声が多く、観光案内サービスの向上を図ることができた。また、バスには市内でガイド講座受講中の人材をサポートスタッフとして同行させたことで、人材育成・地域雇用の目的を達成できたが、価格等のさらなる検証をするためにも今後継続的に実施していくことが課題である。
取組② 「地域力」強化事業		
実施主体	主担当:うるま市観光課(副担当:うるま市民、教育委員会、阿麻和利浪漫の会、TAOファクトリー)	
(6)実施した取組の内容	当初提案により予定していた計画	
	実際の取組内容及びその結果	
	-1	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:市民サポーターズクラブの創設 実施時期:平成20年12月～ 対象者:うるま市民(目標40人) 取り組みの目的:上記クラブを創設し三大イベント等のサポートを行うことにより、市民リーダーの養成を図るとともに、市民参加による官民協働のまちづくりの基盤を作ることを目的とする。
-2	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:青少年交流の推進(県内外の中高生の総合文化交流) 実施時期:平成20年11月～12月 実施場所:沖縄県外 取組の目的:県内外の中高生を対象として、「肝高の阿麻和利」を通じて相互文化交流を行うことにより、「肝高の阿麻和利」の質の向上及び人材教育、県外への情報発信を図る。 	
-3	<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:学校教育機関との連携強化(郷土学習等の推進) 実施時期:平成20年11月～平成21年2月(計4回) 実施場所:市内小中学校及び市内史跡・観光施設 取組の目的:市内の小中学校を対象に学校の特別授業で郷土学習(歴史、文化、物産等)による教育・啓発活動を行うことで、子供の本市に対する理解・愛着心を深め、将来的な人口定着を図る。 	
		<ul style="list-style-type: none"> 実施内容:市民サポーターズクラブの創設 実施時期:平成20年12月1日～ 対象者:市内在住者及び市内労働者 取り組みの結果:うるま市広報にて募集したところ、目標を上回る50名を達成した。市主催の説明会では「自分たちのまちのためにできることからやろう」という意見も聞かれ、1月実施予定のイベントのサポートにも多数の市民が応募していただいている。これらの活動を継続的に実施することで官民協働の新たな人と人とのつながりが生まれ、一層魅力ある地域に発展していくことが期待される。 実施内容:青少年交流の推進(県内外の中高生の総合文化交流) 実施時期:平成20年11月20日～26日 実施場所:ハワイ 取組の結果:地元中高生が演じる「肝高の阿麻和利」がハワイ公演をした際に、現地にある沖縄県人会や現地中高生との交流を行った。「肝高の阿麻和利」が1,600人以上のお客様を動員し地元新聞で紹介されるなど大盛況であったうえに、参加した子供たちからは「交流を通じて異文化と地域の文化も心から大切にすること」「一人一人が自覚をもつこと」などの意見(アンケート結果)が多く寄せられ当初目的を大いに達成できた。 実施内容:学校教育機関との連携強化(郷土学習等の推進) 実施時期:平成20年11月17日～平成21年1月9日(計4回) 実施場所:市内小学校(4校)及び市内史跡・観光施設 取組の結果:各小中学校の教室にて映像を用いて市内の歴史、文化、特産品等の学習を行った。学習前と学習後にそれぞれ同じテストを行い、定量的に学習成果を検証したところ、17点満点平均で3.7点(22%)の上昇が見られた。また、「うるま市が好きか?」との問いに対し355人中42人(12%)が「さらに好きになった」と回答しており、「郷土愛(愛着心)の醸成」という当初の目標に対して大きな成果があったといえる。また、市内小中学生を上記市民サポーターとして活動をともにすることで、幼少期から地域への関心を図ることが期待できる。

	取組③ 実施主体	”健康・長寿”ビジネス支援事業 主担当:コンソーシアム(うるま市まちづくり課、おきなわ健康財団、市物産振興会、漁協団体、農業団体) 当初提案により予定していた計画 実施内容:おきなわ未病センターを活用した健康プログラム 取組の目的: ・検討委員会を設置し、具体的な構築内容について検討を行う。 ・県外高齢者を対象として、PR資料を作成し、参加者を募集する。 ・おきなわ未病センターで、参加者に1週間程度の健康プログラムの実践を行う。 ・プログラム終了後、を実施し、消費者ニーズの把握と需要予測を把握する。 実施内容:ぬちまーす(塩)・もずく等の健康食特産品のブランド化 取組の目的: ・市内の食品業者で、ぬちまーす・もずく等を利用した新健康食品開発を行う。 ・もずくの商標統一を行い健康食特産品のPR資料作成を行う。 ・試食会とアンケートを実施し、ニーズの把握と需要予測を把握する。	実際の取組内容及びその結果 ・実施内容:おきなわ未病ケアセンターを活用した健康プログラム ・取組の結果:おきなわ未病ケアセンターを活用した健康プログラム(ピーチセラピー、スパセラピー、アロマセラピー、琉球温熱等)の基本形を構築する事ができた。 県外高齢者を対象とした新たなビジネスモデルを展開する基礎固めができた。 ・実施内容:ぬちまーす(塩)・もずく等の健康食特産品のブランド化 ・取組の結果:ぬちまーすのブランド力を活かした特産品の開発や日本一の生産量を誇るモズク等の特産品をブランド化する機会を得た。健康食品特産地としてイメージアップを図り、特産品の消費拡大を目指す。市内の生産者(1次産業)と製造業(2次産業)の連携することができた。地域の各種団体と連携を図ることができた。雇用の創出につなげることができる。
(7)実施体制		平成20年度の取組実施における体制・役割分担 ・うるま市合併再生プロジェクト推進本部会議 下記7団体で構成され、それぞれの役割を分担 ・うるま市観光課(主担当:取組①、②) 推進本部会議代表団体。地方の元気再生事業の事務局として各取組の管理を行うほか、三大イベント主催、関係者間の調整及び広報等を担当。 ・うるま市まちづくり課(主担当:取組③) “健康・長寿”ビジネス支援事業推進協議会を設置し、その中で健康長寿プログラム部会と特産品開発部会に分かれ事業を実施。 ・うるま市闘牛組合(担当:取組①) 三大イベント(闘牛出演関係者調整) ・うるま市エイサー団体(担当:取組①) 三大イベント(エイサー出演関係者調整) ・うるま市阿麻和利浪漫の会(担当:取組①) 三大イベント(阿麻和利出演関係者調整) ・(財)おきなわ健康長寿研究開発センター(担当取組③) “健康・長寿”ビジネス支援事業推進協議会委員として、市内にある団体代表者のみならず、県外で活躍する専門家を配置し事業の効果が最大限に発揮されるようにした。 ・TAOファクトリー(担当:取組①) 三大イベント総合演出	取組の実施を踏まえた反省点 これまでに推進本部会議を2回開催し、事業推進状況のチェックや意見交換等を重ねることで円滑な進捗させることができた。 ・取組①うるま市観光課が中心(主催)となって三大イベントの出演者との調整や旅行会社とのツアー内容の調整を行った。懸念事項であったイベントの総合プロデュースについては地域に精通したイベントプロであるTAOファクトリーが総合演出を担当し、地域関係者間で頻繁な協議を重ねることで解決した。しかし、通年定期開催に向けたイベントの実施主体を市から他組織に移管するための基礎づくりに課題が残った。多言語(4ヶ国語)による観光案内はうるま市観光課が中心となって計画どおり実施し成果を上げることができた。有料観光ガイドの創設に関しては、当初計画になかったうるま市地域雇用創出促進協議会と連携し、協議会が実施しているガイド要請講座の受講生をモニターツアーに参加させるなど横断的に実施した。 ・取組②うるま市観光課が中心となって市民サポーターズクラブの創設、青少年交流の推進(県内外の中高生の総合文化交流)、学校教育機関との連携強化(郷土学習等の推進)を実施した。特に青少年交流の推進については阿麻和利浪漫の会との連携により充実した交流が実現できた。 ・取組③推進本部会議事務局のうるま市観光課は、上記各取り組みの事務局機能に加え、関係者間の調整や広報、スケジュール管理を担当し、取組内容、スケジュールともほぼ計画通り実施することができた。
(8)取組により得られた成果		○成果1→ うるまの知名度向上と地域潜在力の強化 H19 入込み数114万人、リピート率41% H20(実際に得られた成果) ・市全体の平成20年度入込み数は未集計であるが、下記のとおり想定される。 ・イベント集客数推計30,000人+うるま市入込み数自然増推計46,000人=76,000人 ・12月に実施したイベントでは、1回につき約1,250人の集客であったが、上記目標を達成するためには約2,300人が必要となる。 ・リピート率についても同様平成20年度時点は未集計であるが、本イベントのアンケート結果によるとリピート率は65%である。 ○成果2→ 継続してゆく「地域力」の基礎づくり H19 完全失業率14.6%(平成17年国勢調査) (完全失業者数7,447人、生産人口51,034人) H20(実際に得られた成果) ・市全体の平成20年度完全失業率は未集計であるが、雇用促進効果として下記のとおり想定される。 ・観光収入増額(イベントによる観光収入増+宿泊者増による観光収入増+市内消費による観光収入増)÷県内1人当たり所得額=観光収入増による雇用創出可能性人数274人 ・(7,447人-274人)÷51,034人=14.1%(当初目標達成) ○成果3→ うるまの地名度向上と地域潜在力の強化、継続してゆく「地域力」の基礎づくり H19 うるま市は、日本一のモズクの生産量であるが、モズクを活かした特産品(加工食品、化粧品及び健康食品等)が少なく経済的波及効果は少なかった。 H20(実際に得られた成果) ・健康長寿プログラムに関しては、産官学医の連携体制を構築し、地域資源を活用したプログラム開発が得られ、2月初旬に実施する予定。 ・健康食特産品のブランド化については、地域内の生産者、企業、団体、専門家で構成するチームが設立され、各種試作品、ロゴマーク、PR資料等が順調に進み一定の成果が得られる見込み。	H20(当初予定していた目標) 入込み数124万人、リピート率50% H20(当初予定していた目標) 完全失業率14.1% H20(当初予定していた目標)

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>【取組①】 ・モニターツアーにおける県外客の参加数がやや少なかったこと、3ヶ月に1回の割合のイベント催行であったこと、などの理由によりターゲットや広告宣伝方法及び取り組み体制の検証が不十分であり、通年定期開催に向けて課題として残った。そのための改善点として、①催行回数を同等以上にした中でさらなる検証(実施主体等取組体制の確立、事業収支及び継続性の検証、地域関係者間の協力関係の強化及び役割分担の明確化)、②県外客誘客増に向けた第1種旅行業登録会社との連携強化、を行う必要がある。 ・近年沖縄は外国人観光客が増加傾向にあり外国人観光客の誘客増を図るため、その体制の構築を図る必要がある。このため、市内観光案内施設等の多言語表記を充実させる必要がある。</p> <p>【取組②】 ・市民サポーターズクラブによる三大イベントのサポート等の活動を通じて、「地域で取り組む観光振興」の心を醸成する必要がある。 ・観光地域としてのさらなる魅力づくりを行うために、県外から中高生を呼び地元で青少年交流をすることで、ホスピタリティの醸成を図る必要がある。</p> <p>【取組③】 ・健康長寿プログラム部会では、既存のエビデンスを活用した多種多様なプログラム開発が十分に出来なかった。 ・最先端の検査技術とプログラム開発を目指したが、倫理上の観点での議論が不十分であったため実施できなかった。 ・プログラムレジャー・レク・エンターテインメント性等が弱かったのではないかと。 ・特産品開発部会では、戦略的なマーケティング調査が十分でなかった。</p>																		
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="286 416 1048 443">当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</th> <th data-bbox="1048 416 2098 443">今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="286 443 1048 528"> 1. 「観光闘牛・観光エイサー・観光阿麻和利」の通年定期開催旅行商品化、全国販売(H21年度～) ・通年定期開催に向けた本格稼働 </td> <td data-bbox="1048 443 2098 528"> 1. 「観光闘牛・観光エイサー・観光阿麻和利」の通年定期開催旅行商品化、全国販売(H21年度～) ・実施主体:うるま市商工会 ・通年定期開催に向けて今後の取組体制の構築(実施主体の確立等)、広告宣伝の充実を目指すためうるま市商工会によるイベント催行を行う。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額15,192千円)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 528 1048 612"> 2. 「観光協会」の設立、観光拠点(観光案内センター等)の整備(H21年度～) ・三大イベント実施主体、うるま市観光振興総合組織としての観光協会の設立 ・県内外へのイベント等情報発信機能を備えた観光拠点の整備 </td> <td data-bbox="1048 528 2098 612"> 2. 「観光協会」の設立、観光拠点(観光案内センター等)の整備(H21年度～) ・三大イベント実施主体、うるま市観光振興総合組織としての観光協会を設立する。 ・県内外へのイベント等情報発信機能を備えた観光拠点を整備する。 【活用を希望する制度:なし(自主財源または関係省庁の助成金を申請予定)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 612 1048 687"> 3. 「四島巡り」及び「勝連城跡」周遊観光の有料観光ガイド付き旅行商品の造成(H21年度～) ・有料観光ガイド付き旅行商品造成の実現に向けた取り組みの継続 </td> <td data-bbox="1048 612 2098 687"> 3. 「四島巡り」及び「勝連城跡」周遊観光の有料観光ガイドの育成(H21年度～) ・うるま市観光のサービス向上のための有料観光ガイドを育成する。 【活用を希望する制度:なし(厚生労働省の地域提案型雇用創造促進事業を活用予定)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 687 1048 788"> 4. 市民サポーターズクラブ本格活動(H21年度～) </td> <td data-bbox="1048 687 2098 788"> 4. 市民サポーターズクラブ本格活動(H21年度～) ・実施主体:うるま市観光課 ・H20年度に創設したクラブについて本格的な活動を継続的に実施する。 ・三大イベントをサポートするなどの活動を定期的に行うため、会員への情報伝達方法及びシステムを構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額350万円)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 788 1048 863"> 5. 相互文化交流として、地元中高生による県外での「肝高の阿麻和利」公演(H21年度～) ・「肝高の阿麻和利」の県外PR、交流を通じた人材育成 </td> <td data-bbox="1048 788 2098 863"> 5. 地元中高生を対象とした「肝高の阿麻和利」を通じた県内外相互文化交流(H21年度) ・実施主体:うるま市観光課 ・「肝高の阿麻和利」の県外PR及び交流を通じた人材育成を図るため実施する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 863 1048 963"> 6. 郷土学習の推進(H21年度～) ・地元小中学生に対する郷土愛の醸成 </td> <td data-bbox="1048 863 2098 963"> 6. 郷土学習の推進(H21年度～) ・実施主体:うるま市観光課 ・地元小中学生を対象として学校の特別授業で郷土学習(歴史・文化・物産等)を継続的にを行い、子供の本市に対する理解・愛着心を深め、将来的な人口定着を目指す。 【活用を希望する制度:なし(H20年度に実施したデータベースを用いて自主財源により実施予定)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 963 1048 1064"> 7. 長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化(H21年度～) </td> <td data-bbox="1048 963 2098 1064"> 7. 長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化(H21年度～) ・実施主体:うるま市まちづくり課 ・ホテル等と提携したウェルネスリゾートプログラムを実践していく予定。 ・未病ケアツアー、未病ケアプログラムを引き続き研究・開発・実践していく予定。 【活用を希望する制度:なし(自主財源により実施予定)】 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 1064 1048 1144"> 8. 健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発(H21年度～) </td> <td data-bbox="1048 1064 2098 1144"> 8. 健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発(H21年度～) ・実施主体:うるま市まちづくり課 ・地域資源を活用した健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発を引き続き取り組んでいく。 【活用を希望する制度:なし(自主財源にて実施予定)】 </td> </tr> </tbody> </table>	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度	1. 「観光闘牛・観光エイサー・観光阿麻和利」の通年定期開催旅行商品化、全国販売(H21年度～) ・通年定期開催に向けた本格稼働	1. 「観光闘牛・観光エイサー・観光阿麻和利」の通年定期開催旅行商品化、全国販売(H21年度～) ・実施主体:うるま市商工会 ・通年定期開催に向けて今後の取組体制の構築(実施主体の確立等)、広告宣伝の充実を目指すためうるま市商工会によるイベント催行を行う。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額15,192千円)】	2. 「観光協会」の設立、観光拠点(観光案内センター等)の整備(H21年度～) ・三大イベント実施主体、うるま市観光振興総合組織としての観光協会の設立 ・県内外へのイベント等情報発信機能を備えた観光拠点の整備	2. 「観光協会」の設立、観光拠点(観光案内センター等)の整備(H21年度～) ・三大イベント実施主体、うるま市観光振興総合組織としての観光協会を設立する。 ・県内外へのイベント等情報発信機能を備えた観光拠点を整備する。 【活用を希望する制度:なし(自主財源または関係省庁の助成金を申請予定)】	3. 「四島巡り」及び「勝連城跡」周遊観光の有料観光ガイド付き旅行商品の造成(H21年度～) ・有料観光ガイド付き旅行商品造成の実現に向けた取り組みの継続	3. 「四島巡り」及び「勝連城跡」周遊観光の有料観光ガイドの育成(H21年度～) ・うるま市観光のサービス向上のための有料観光ガイドを育成する。 【活用を希望する制度:なし(厚生労働省の地域提案型雇用創造促進事業を活用予定)】	4. 市民サポーターズクラブ本格活動(H21年度～)	4. 市民サポーターズクラブ本格活動(H21年度～) ・実施主体:うるま市観光課 ・H20年度に創設したクラブについて本格的な活動を継続的に実施する。 ・三大イベントをサポートするなどの活動を定期的に行うため、会員への情報伝達方法及びシステムを構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額350万円)】	5. 相互文化交流として、地元中高生による県外での「肝高の阿麻和利」公演(H21年度～) ・「肝高の阿麻和利」の県外PR、交流を通じた人材育成	5. 地元中高生を対象とした「肝高の阿麻和利」を通じた県内外相互文化交流(H21年度) ・実施主体:うるま市観光課 ・「肝高の阿麻和利」の県外PR及び交流を通じた人材育成を図るため実施する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】	6. 郷土学習の推進(H21年度～) ・地元小中学生に対する郷土愛の醸成	6. 郷土学習の推進(H21年度～) ・実施主体:うるま市観光課 ・地元小中学生を対象として学校の特別授業で郷土学習(歴史・文化・物産等)を継続的にを行い、子供の本市に対する理解・愛着心を深め、将来的な人口定着を目指す。 【活用を希望する制度:なし(H20年度に実施したデータベースを用いて自主財源により実施予定)】	7. 長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化(H21年度～)	7. 長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化(H21年度～) ・実施主体:うるま市まちづくり課 ・ホテル等と提携したウェルネスリゾートプログラムを実践していく予定。 ・未病ケアツアー、未病ケアプログラムを引き続き研究・開発・実践していく予定。 【活用を希望する制度:なし(自主財源により実施予定)】	8. 健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発(H21年度～)	8. 健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発(H21年度～) ・実施主体:うるま市まちづくり課 ・地域資源を活用した健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発を引き続き取り組んでいく。 【活用を希望する制度:なし(自主財源にて実施予定)】
当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度																		
1. 「観光闘牛・観光エイサー・観光阿麻和利」の通年定期開催旅行商品化、全国販売(H21年度～) ・通年定期開催に向けた本格稼働	1. 「観光闘牛・観光エイサー・観光阿麻和利」の通年定期開催旅行商品化、全国販売(H21年度～) ・実施主体:うるま市商工会 ・通年定期開催に向けて今後の取組体制の構築(実施主体の確立等)、広告宣伝の充実を目指すためうるま市商工会によるイベント催行を行う。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額15,192千円)】																		
2. 「観光協会」の設立、観光拠点(観光案内センター等)の整備(H21年度～) ・三大イベント実施主体、うるま市観光振興総合組織としての観光協会の設立 ・県内外へのイベント等情報発信機能を備えた観光拠点の整備	2. 「観光協会」の設立、観光拠点(観光案内センター等)の整備(H21年度～) ・三大イベント実施主体、うるま市観光振興総合組織としての観光協会を設立する。 ・県内外へのイベント等情報発信機能を備えた観光拠点を整備する。 【活用を希望する制度:なし(自主財源または関係省庁の助成金を申請予定)】																		
3. 「四島巡り」及び「勝連城跡」周遊観光の有料観光ガイド付き旅行商品の造成(H21年度～) ・有料観光ガイド付き旅行商品造成の実現に向けた取り組みの継続	3. 「四島巡り」及び「勝連城跡」周遊観光の有料観光ガイドの育成(H21年度～) ・うるま市観光のサービス向上のための有料観光ガイドを育成する。 【活用を希望する制度:なし(厚生労働省の地域提案型雇用創造促進事業を活用予定)】																		
4. 市民サポーターズクラブ本格活動(H21年度～)	4. 市民サポーターズクラブ本格活動(H21年度～) ・実施主体:うるま市観光課 ・H20年度に創設したクラブについて本格的な活動を継続的に実施する。 ・三大イベントをサポートするなどの活動を定期的に行うため、会員への情報伝達方法及びシステムを構築する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額350万円)】																		
5. 相互文化交流として、地元中高生による県外での「肝高の阿麻和利」公演(H21年度～) ・「肝高の阿麻和利」の県外PR、交流を通じた人材育成	5. 地元中高生を対象とした「肝高の阿麻和利」を通じた県内外相互文化交流(H21年度) ・実施主体:うるま市観光課 ・「肝高の阿麻和利」の県外PR及び交流を通じた人材育成を図るため実施する。 【活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額200万円)】																		
6. 郷土学習の推進(H21年度～) ・地元小中学生に対する郷土愛の醸成	6. 郷土学習の推進(H21年度～) ・実施主体:うるま市観光課 ・地元小中学生を対象として学校の特別授業で郷土学習(歴史・文化・物産等)を継続的にを行い、子供の本市に対する理解・愛着心を深め、将来的な人口定着を目指す。 【活用を希望する制度:なし(H20年度に実施したデータベースを用いて自主財源により実施予定)】																		
7. 長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化(H21年度～)	7. 長期滞在型ウェルネスリゾートのプログラム開発、商品化(H21年度～) ・実施主体:うるま市まちづくり課 ・ホテル等と提携したウェルネスリゾートプログラムを実践していく予定。 ・未病ケアツアー、未病ケアプログラムを引き続き研究・開発・実践していく予定。 【活用を希望する制度:なし(自主財源により実施予定)】																		
8. 健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発(H21年度～)	8. 健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発(H21年度～) ・実施主体:うるま市まちづくり課 ・地域資源を活用した健康食特産品のブランドの質の向上、新商品開発を引き続き取り組んでいく。 【活用を希望する制度:なし(自主財源にて実施予定)】																		

うるま市合併再生プロジェクト(沖縄県うるま市)

平成20年度 地方の元気再生事業
事業実施調書 参考資料

—うるま市、うるま市闘牛組合、うるま市エイサー団体、うるま市阿麻和利浪漫の会、旅行会社、うるま市民—

◆主な実施取組の内容◆

取組①観光まちづくり形成事業

実施主体:うるま市観光課

実施内容・結果:県内外の観光客等を市内に誘引し地域経済活性化を図るため、従来の一民間組織主催の不定期開催によるイベントについて、不可能とされていた観光商品化(県外・市外向けの通年定期開催)をうるま市が中心となって今回初めて実施した。非常に評判が良く、今後のさらなる展開が期待されている。



←伝統と迫力の闘牛



→ドームで初めてのエイサー



←地元中高生が演じる「阿麻和利」

取組②「地域力」強化事業

実施主体:うるま市観光課

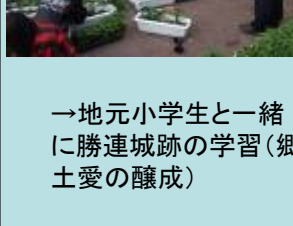
実施内容・結果:「肝高の阿麻和利」がハワイ公演を通じて現地中高生等との交流を行ったことで、人材育成や地域文化の理解向上を図ることができた。市民サポーターズクラブを創設したところ、目標を上回る約50名の登録があり、「自分たちのまちのためにできることからやろう」との気運が高まりつつある。地元小学生を対象として特別学習(現地学習)を実施したことで、郷土愛の醸成を図ることができた。



→ハワイ公演による交流の様子



←市民サポーターによるプランターづくり



→地元小学生と一緒に勝連城跡の学習(郷土愛の醸成)

取組③「健康・長寿」ビジネス支援事業

実施主体:うるま市まちづくり課

実施内容・結果:ぬちまーすのブランド力を生かした特産品の開発や日本一の生産量を誇るもずく等の特産品のブランド化に取り組んだ。市内の生産者と製造業の連携を図ることができた。



「旬のもずく」試食



ロゴマーク案



健康長寿プログラム部会

◆取組実施による成果・今後の展開◆

取組①、②については、地域の独自文化が新たな観光資源になりうることが実証されたほか、行政だけでなく地元からも観光振興に向けた気運が高まりつつある。今後はただイベントを開催するだけではなく、子供を対象とした郷土愛の醸成、地域文化の持続・発展等を踏まえながら、観光振興に向けた取り組みを地域全体で取り組むことが必要である。

取組③の健康食特産品のブランド化については、地域内の生産者、企業、団体、専門家で構成するチームが設立され各種試作品、ロゴマーク、PR資料等が順調に進み一定の成果が得られる見込みであり、今後も引き続き研究・開発を行っていく予定である。